

機械工学科における広報活動

椿下庸二、長坂今夫

水谷秀行、十河拓也

1 はじめに

今日の情報化社会において、大学もその教育・研究の現状を積極的に情報発信していくことは大学の社会的使命として今後益々重要となっていくものと考えられる。その際、情報発信の対象者は多くが想定され、これまでに大学としても多角的な広報活動を展開してきた。例えば、高校生（受験生）に対しては、オープンキャンパスや大学HP上の入学案内、大学展への出展、高校への出張ミニ講義の実施などが挙げられる。しかし、受験生各自が将来学びたい専門分野の教育・研究の現状、すなわち、学部、学科活動の詳細については十分な情報提供が行われていないのが現状のように思われる。そこで、機械工学科では迅速かつ的確な情報発信システムの構築が急務と考え、平成14年度に学科PRに関するワーキンググループを組織した。グループ内の検討事項として、学科および研究室単位のホームページの整備・充実、出張ミニ講義（進路および大学説明を含む）の際の学科紹介支援プログラムの作成、さらにはオープンキャンパスおよび大学祭等のイベントに際しての学科企画の立案などを取り上げ、これらの広報活動を一元化してその改善と効果の向上を目指すことにした。ここでは、機械工学科におけるこれまでの教育・研究に関する広報活動の取り組みとワーキンググループで手掛けた2, 3の課題とその成果について報告する。

2 広報活動の具体的取り組み

2.1 ホームページの構築

機械工学科では、平成10年度より学科独自にWebサーバを設けて、教育・研究活動内容を公開している。これまでに、学科全体としてのコンテンツを充実させるとともに、各研究室ごとにホームページの整備もすすめ、情報発信の範囲を広げてきている。現在のホームページ（図1）の内容を大まかにまとめると、つぎのようになる。

- ① 教育方針および教育科目の概要紹介
- ② 特色ある教育科目・行事の紹介
- ③ 各教員の紹介と各研究室ホームページ
- ④ 卒業研究テーマ紹介と発表会の記録
- ⑤ 受験生向けの上記項目へのリンク集

での企画を取り上げ、そこで行われる4サイクルエンジンの分解・組立実習やLEGOを使ったメカニズムコンテストをそれぞれ写真入りで詳しく紹介している。また、機械工学科では昨年度より新しい試みとして卒業研究発表会の予稿集と写真をCD-ROM化して卒業生と教員に配付したが、④ではこれをすべて公開している。上に挙げた①～④は一般向けの項目名をつけてトップページからリンクしているが、これらを受験生向けにアレンジした上でリンク集としてまとめたのが⑤である(図2)。このページは昨今、問題視されている工学部の受験生減少への対策として試作したもので、リンク集のほかオープンキャンパスにおける企画の紹介やそのスナップ写真、質問受付ページなどを設けている。このうち、質問受付ページは現在まで2カ月弱の運用実績しかないが、現役高校生から卒業生の就職先についての問い合わせが届き、潜在的な受験生のアクセスがあったことを窺うことができた。なお、現在、工学部ホームページワーキンググループでは中部大学ホームページから直接リンクされた工学部受験生向けホームページを新たに作成する準備が進められている。その構成は、大学トップページ→「工学部のひろば」→各学科紹介(既存の工学部紹介パンフレットをベースに作成)のようになる予定である。機械工学科で独自に試作した上記⑤のページはこの学科紹介ページに統合させる形で活用し、さらに受験生に魅力あるページとして発展させていきたいと考えている。

2.2 学科紹介における支援プログラムの作成

平成13年10月より1年間、機械工学科として行ってきた高校生向けの学科紹介あるいは進路説明会は春日丘高校、春日井南高校など5校にのぼる。講師として派遣された教員はそれぞれ異なる。講義に割り当てられる時間は概ね30分から45分であった。この限られた時間で、各担当者は事前に用意した原稿を利用していた。その場合に、内容については各担当者に任されていたため、必ずしも学科として統一した内容ではなかった。また、担当者が事前に各自で用意するため、その負担は必ずしも少なくなかった。

そこで、機械工学科では昨年度後期より、我々、ワーキンググループが中心になって、高校生向けの学科紹介のための支援プログラムについて議論してきた。その具体的な私たちの一つとして以下に示す「中部大学工学部機械工学科について」と題する講演原稿を作成した。これはパワーポイントで作られているため、PCとプロジェクタがあれば容易に使用できる。以下、その内容について少し触れてみたい。

原稿は全部で36枚からなる。タイトル、学科紹介の内容に続き、機械工学一般に関する話題(図3(a)、主に新聞報道)を2,3例取り上げて機械工学の重要性について述べている。次に、当機械工学科における教育目標やカリキュラムの特徴(図3(b))、授業内容を説明している。また、恵那オリエンテーションにおけるイベント(図3(c))、基礎ゼミナール(図3(d))、4年次学生の卒業研究発表会(図3(e))などを紹介している。これらのイベントなどを通して、学生が自ら考え、それを的確に伝えるということの重要性について触れている。さらに、機械工学科の研究室紹介、将来の進路や就職関連な

どについて説明し、高校で特に勉強しておいて欲しい科目などへの要望（図3(f))をして締めくくる内容となっている。時間があれば、前節で述べた機械工学科のホームページにリンクしているいくつかの研究室のホームページを紹介することもある。なお、各講師の先生方には、講義時間の関係で適当に取捨選択しての使用をお願いしている。

3 おわりに

機械工学科の学科PRに関するワーキンググループを中心に、高校生向けの学科および研究室単位のホームページを整備・充実し、高等学校から依頼された進路および大学説明のためのミニ講義で利用できる学科紹介支援プログラムを作成してきた。以下に問題点についてまとめておく。高校生からのホームページへのアクセスはかなりの数に上っているようであるが、彼らに与えたインパクトはどのようなものかは把握していない。また、学科紹介支援プログラムについても、実際に利用した教員による評価はまずまずであったが、肝心の高校生による評価は得ていない。そこでまず、両者に対する高校生による評価結果を得る努力をしなければならないであろう。例えば、推薦試験における面接の質問項目にこれらの評価を加えるとか、新入生に対してこれらに関するアンケートをとることも一考かと思う。今後とも、高校生および広く一般からの意見・要望を聞き取る努力をし、それらをフィードバックして常に改良していく必要があろう。

このような機械工学科全教員による学科の広報活動への取り組みが、必ずや学習意欲のより高い入学生の獲得に結びつき、機械工学科の教育研究活動の充実・活性化に及ぼす効果を期待したい。

教 授	工学部	機械工学科	椿下庸二
助教授	工学部	機械工学科	長坂今夫
助教授	工学部	機械工学科	水谷秀行
講 師	工学部	機械工学科	十河拓也



図1 機械工学科ホームページ

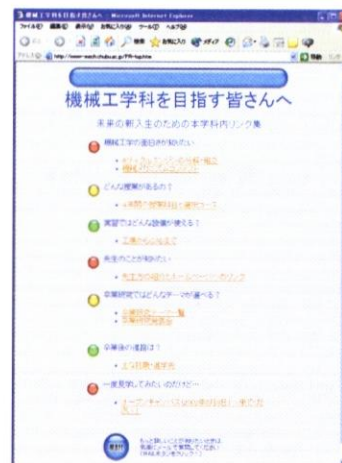
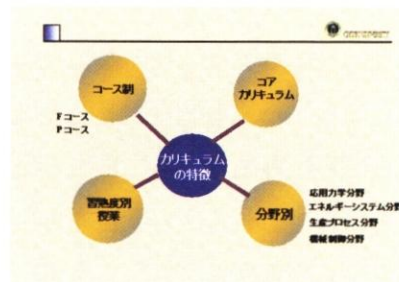


図2 受験生向けホームページ



(a) 機械工学に関する話題
(H13.5.29 中日新聞より抜粋)



(b) カリキュラムの特徴



(c) 恵那オリエンテーション



(d) 基礎ゼミナール



(e) 卒業研究発表会



(f) 高校生への要望

図3 学科紹介における支援プログラム
(「中部大学工学部機械工学科について」)